

# 東日本大震災アンケート

2011年3月11日（金）14時46分18秒。

あの日を日本広告制作協会（OAC）に加盟している会社はどう迎えたのか。  
また、その後どのような不安を抱え、また今後取り組むべきことは何か。

OACでは、震災から約1か月後の4月7日に会員社に対してアンケート用紙を配布。  
19社からの回答を得ました。

ここにその内容をお知らせし、今後のことを考えるヒントとしてご活用いただければと思います。

なお、ここであらためて今回の震災で犠牲になられた方のご冥福をお祈りし、また被災地の  
方々の生活が一刻も早く普通のものに戻れるよう祈念いたします。

---

< 目次 >

2p ~ 5p : 賛助会員校 東北電子専門学校(仙台)の状況

6p ~ (会員各社の状況)

**1. 震災当日**

・被害状況

7p : ・避難方法

8p : ・外出時の社員との連絡に関して

9p : ・安否確認に要した時間 ・震災当日の業務について

10p :

11p : ・震災当日の帰宅状況

12p : ・会社へ宿泊した際の食料等 ・携帯電話以外の通信手段

13p :

14p ~ 15p

**2. 震災後に関して**

・震災後自宅待機をしましたか？

16p : ・震災後の就業時間はどうしましたか？

17p : ・震災後の社内での節電について

18p : ・仕事上重要なものの管理や保管方法など、  
今後の対応についてどうお考えですか？

19p :

**3. 震災後の仕事面での影響と今後について**

・クライアントの状況は？

20p : ・仕事面での影響は？

21p : ・今後の経営上の不安要素に関して

22p :

23p : ・当面の対応策は？

24p : ・今回の震災で感じたことはなんでしょうか？

25p :

26p : ・当日の事務局について

27p : ・編集・集計後記

OACの賛助会員校、仙台の東北電子専門学校からもアンケートへの回答がありました。  
アンケートの回答日は4月8日です。

## ■被害状況

### 東北電子専門学校(本校)

- 建物への際立った被害はなかったものの、外壁の剥離、各教室のコンピュータのほとんどが破損。
- 学校は春休み中で学校での犠牲者はでなかったが、後日判明していくうちに本校生にも複数犠牲になったものがあり、今年の卒業式は中止とした。現在、卒業生の住所および安否の確認を行っており卒業証書を郵送する予定である

### 東日本空港専門学校(直営姉妹校)

- 津波による全校舎の水没(校舎内に30cm～50cmの厚みでヘドロが付着)
- 春休みだった為、人的被災はなし。但し、校舎の改築。補修が必要。
  - \* グループ全体でローテーションを組み、ヘドロの撤去作業および津波で破壊した航空機を洗浄し格納作業を行っている。
  - \* ヘドロの中に埋もれてしまった航空機材、航空機の教育用部品や工具を掘り出し中。
  - \* 教室内の学生机や教卓等を本校である「東北電子専門学校」に搬送し、再利用すべく洗浄作業中。
  - \* 校舎が改築するまでの間、東北電子専門学校の教室を提供し授業を行う予定。

### 仙台日本語学校(直営姉妹校:東北電子専門学校内)

- \* 海外留学生が中心
- 地震による被災と福島第1原発および女川原発の放射能被害を想定し、自国の帰国勧告に基づきほとんどの外人留学生が各国に帰国。

## **■避難方法**

---

○避難場所は、校舎の向かいにある花京院公園に全員避難。

## **■外出時の社員との連絡に関して**

---

○約 80 名の教員の方々が皆、学内の独自のサーバーを経由してのデスクネットを使って自分の現在の所在を確認。

## **■安否確認に要した時間**

---

○教職員の安否の確認は、2 日間。先にも記しましたが、学校は春休み中にて学生との連絡は手間取っている。

## **■震災当日の業務について**

---

○学内にいた学生に対しては、本校中庭に学生全員を教職員全員の誘導で避難させ、激震であることを判断した上、花京院公園に避難揺れがおさまったのを確認し、学内の被災状況を確認した上で解散した。

○震災後翌日から、全教職員が登校し、今後の予定や、それぞれの自宅で被災に遭った学生達の確認に動いた。

## **■震災当日の帰宅状況**

---

- (ア)校舎へ泊まった 2 名
- (イ)歩いて帰宅した 20 名
- (ウ)帰宅者受入れ施設の利用 0 名
- (エ)その他  
臨時市営バス、自転車など利用

## **■会社へ宿泊した際の食料等**

---

○学校には、学生食堂と売店があるため、不足はありませんでした。

### **■携帯電話以外の通信手段**

○特になし

### **■震災後自宅待機をしましたか？**

○実施せず。全員出勤。

### **■社員の方のご家族に被災された方はいらっしゃいましたか？**

○(教職員には)幸いありません。

### **■震災後の社内での節電について**

※具体的にこうしているというものがありましたらご記入下さい。

○エアコンの運転時間を制限

○こまめに電気を消す。

### **■工作上重要なものの管理や保管方法など、 今後の対応についてどうお考えですか？**

○独自のサーバの開発や、電源の確保の為に自家発電設備の設置、火災や衝撃に耐える資料室が必要かと感じる。

### **■クライアントの状況について**

○該当せず

## **■仕事面での影響について**

○本来の教務以外の作業に現在は追われているが、徐々に戻りつつあると判断しています。

## **■今後の経営上の不安要素に関して**

○自然災害に関しては、人間は無力であると感じました。だからこそ、環境を取り上げた「クリボラ展」の開催は意義あるものと思います。

## **■当面の対応策に関して**

○余震、および情報収集を怠らずにしたいと思います。

## **■今回の被災を受けて感じたこと**

○仙台は、特に災害が甚大で 10,000 人を超える死者が予定されています。気仙沼や、陸全高田は壊滅状態となり、荒浜海岸には、1000 体近い遺体が打ち上げられまさに地獄絵を見ているようで言葉を失いました。さらに復興を放射能の影が襲いかかっています。

人間のおごりが招いた結果なのだろうと反省し、クリエイターとしてできることをしていこうと思います。

# 会員社各社の状況

## 1. 震災当日

### ■被害状況

- 本棚の植木が落ちた程度(渋谷区、ビル6F)。
- 一部棚から資料や書類が床に落ちた程度。都市ガスは自動停止した(新宿区、ビル3F)。
- エレベータが停止した(千代田区、ビル6F・中央区、ビル7F)。
- エレベータの天井のパネルが4枚落下。壁にひび割れ(中央区、ビル7F)。
- 本棚が倒れ入り口のドアガラスが割れた。天井の蛍光灯を吊るケーブルがはずれた(中央区、ビル3～10F)。
- 各デスクの上の資料や本棚の本が振動でかなりの量が落下。蛍光灯が1台床に落下。(渋谷区、ビル8F)。
- 2階フロアーにおいて亀裂が入り、壁紙が破れた(中央区 1, 2F&5F)。
- 事務所でも書類が一部散乱した程度。社員にも被害はなく、営業は外出していたが、各自徒歩で会社に戻ってきた。
- 2階フロアーにおいて亀裂が入り、壁紙が破けたが、ビル管理会社の調査においては耐震性には問題がないとの判断のため、破損が著しい箇所の壁紙を張り替える。

## ■避難方法

---

- 会社にて状況確認をし、特に避難はしなかった。
- 階段にて外へ避難。ビル倒壊の心配がなさそうな場所にてしばらく待機。
- 事務所前駐車場に退避。
- 特別避難はしなかった。
- 揺れが大きくなった時点で、入口のドアを開放状態にして様子を見た。なお、徒歩2～3分圏内に公園と早稲田大学キャンパスがある。
- 避難はしなかったが、非常階段とバルコニーの非常扉を開けた(避難方法としては上記2か所の非常口。避難場所は、当ビル横の小さな公園を想定)
- 近隣の避難場所、港区芝公園へ避難(平時にクライシスの場合の避難場所を定めていた)。
- 本社に集合し、避難はしなかった。
- 現事務所は、移転間もないため、避難場所については徹底されていなかった。事務所で待機し、帰れる者から順次帰宅した。
- 余震が続いたので社外に避難したが、ビルの前で様子を見るにとどまった。
- エレベーターが停止。エレベーターホールに非常階段はあるが、外に出るとかえって危険なため、社内に待機した。
- スタジオの鉄筋量は多く安全なので、地震発生当初はスタジオに集。3時間程度は事務所で今後の方針を検討。各自の判断で徒歩にて帰宅組みと事務所泊まり組みに分かれた。
- 地震発生時に入り口付近へ集合させた。避難場所については周知徹底ができていなかった。

○所在ビル管理会社の指示に従った。

○ゆっくりとした揺れを感じた後、全館放送にて屋外への避難を指示(大阪の学校)。

## **■外出時の社員との連絡に関して**

○外出中の者とは連絡取れなかった。

○夕方まで携帯は繋がらず、連絡不可能。夕方、外出していた社員 から携帯に連絡が入る。

○個人所有の携帯電話、携帯メールで連絡を取った。

○幸い全ての社員が社内にはいた。

○代休の社員とメール連絡をし、3時間後位に送受信が出来た。

○緊急メールリストで安否確認をした。

○発生後1～2時間連絡が取れなかった。

○主に携帯電話やPCメールで対応。

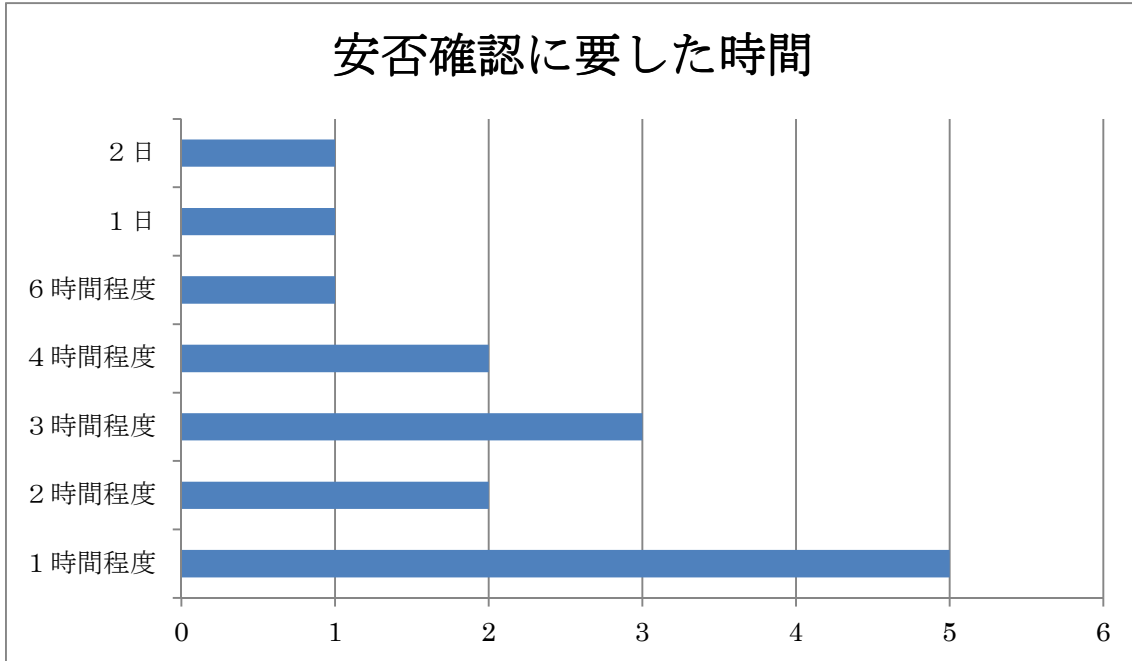
○外出中の社員1名の携帯電話へ会社からメールを送った。

○地震発生後しばらく携帯電話・携帯メールも繋がらず、各自の無事を祈って待機していた。

○携帯電話にて連絡をしていたが繋がらなかった、幸い近辺に居たので、発生より15分程度で全員帰社し確認が取れた。

○外出を伴う業務を行っているものには、会社支給の携帯電話を所有させていて、安否確認方法は携帯電話を利用した安否システムが稼働している。

## ■安否確認に要した時間

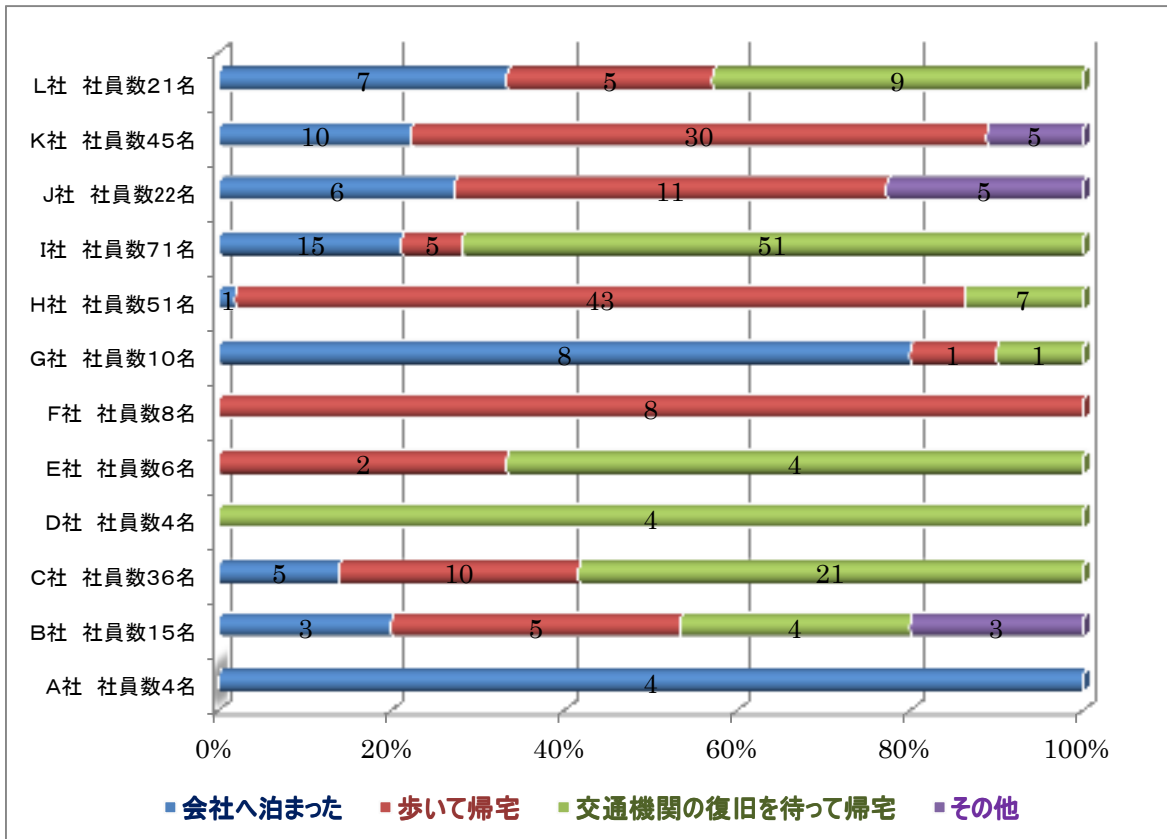


## ■震災当日の業務について

- 当日は業務停止。その後の一週間で全ての業務がキャンセルになる。
- 通常通りの業務。早く帰れる人は早く帰宅させた。
- 余震のたびに駐車場へ移動(避難)。午後5時に帰宅可能者へは帰宅指示。
- クライアントより、納期遅延の連絡があったため、業務を中断し、情報収集に努めた。
- 発生1時間後に帰宅勧奨をしたが2時間後に全員退社。
- テレビで震災情報を収集後、速やかな帰宅を指示。
- 4時半に避難場所から会社へ戻り帰宅指令が出たが、交通情報により、会社で待機。

- 発生後、特に急務のない社員は帰宅。その他は目途がつき次第帰宅。
- 当日の社員のほとんどが事務所内での業務だった。クライアント訪問 していた者が若干名いた。
- 業務に支障がない限り帰宅。
- 電車の復旧が見込まれず、19時頃で業務を打ち切り帰宅。外出中の社員は、しばらく喫茶店で待機後、徒歩にて友人宅へ。
- 3 時間程度は事務所で今後の方針を検討。業務は再開せず、各自の判断で帰宅、もしくは事務所に泊まった。
- 定時(18 時)を繰り上げ、業務に支障がない者は随時帰宅させた。納期の迫っている担当者のみ業務を遂行。
- 午後 4 時頃には業務をやめて全員帰宅指示。
- 通常通りの業務。
- クライアント、業務連携会社へ確認の上、業務は中止。帰宅準備に取り掛かる。

## ■震災当日の帰宅状況



\* 賛助会員の大手企業、社員数約1600名の会社ではそのほとんどが徒歩での帰宅を選択したようです。

\* その他の内容としては

- ・漫画喫茶に泊まった。
- ・深夜に地下鉄が動き出した時点で、近くの駅まで行かれる者は行き、そこから歩いて帰宅。
- ・半数以上の社員は事務所で交通情報を確認しながら待機。夜半より運転再開路線を確認し、随時帰宅。飲食店で夜を明かした者もいた。

## ■会社へ宿泊した際の食料等

- コンビニで調達出来た。
- 夜7時頃にはコンビニのお弁当やおにぎり、カップラーメン等は売り切れていたため、スナック菓子とビール、水等を購入した。
- 近くにコンビニが多く、食料の確保は出来た。
- コンビニで全員の夕食と朝食分を求めることが出来た(4時半には既にコンビニは品薄のため、3班に別れて調達した)。
- 食料の確保は難しかった(緊急を要する業務のあるものはホテルを確保して6~7名が宿泊したが、コンビニ等にはほとんど主食系はなかった)。
- 早いタイミングでまとめ買いしたので、特に問題はなかった。
- コンビニには食料がなかったので、近隣スーパーにて乾物類を確保。
- 水は常備していたが、食料は飲食店やコンビニ等で確保。
- コンビニでの確保は出来ず、近所の寿司店での食事・テイクアウトを利用することが出来た。

## ■携帯電話以外の通信手段

- 災害については携帯のワンセグの映像で知った。
- 携帯メールは繋がらなかった。
- 有意義な情報はツイッターから入手した。
- PCメールは繋がった。

- 携帯の充電器は個人のを共有。
- 携帯 (soft bank)はほとんど繋がらず。
- 充電については停電になることもなかったため、問題はなかった。
- PC メールはそれほど遅延していなかったと思う。
- 当日はほぼ繋がらず。
- ルーターがダウンしたため、PC は繋がらなかった。
- 携帯電話は繋がらなかったが、公衆電話は繋がった。
- PC 同士のメールは問題なし。
- PC から携帯へのメール、携帯同士のメールも2時間半ほどでやりとり出来るようになった。
- ドコモの携帯同士は2時間ほどで通話出来るようになったが、他社携帯とは通話出来なかった。
- 退社した7時より前に会社の固定電話から携帯と通話することは出来なかった。
- PC メールは特に問題なかったように思われるが、受信-送信の検証はしていないので、全面ストップしてしまった訳ではないとだけ言える。スマートフォンは携帯電話よりも電話の反応が悪かった模様。シャットダウンされているような印象を受けた。充電器は常備されているので、徒歩帰宅者の何名かはフル充電にしておいてから会社を出た。
- PC メールは、当日の業務に関して特に不具合は生じなかった。

## 2. 震災後に関して

### ■震災後自宅待機をしましたか？

#### 【実施なかった会社の理由】

- 翌日が土曜日だったこともあり、自宅待機なし。
- やるべき業務があったため。
- 地下鉄が動いていたので、交通手段に支障がなかったため。また、独身者が多いので、何かの際には一緒にいた方が有利だと判断した。
- 定期刊行物の入稿が迫っており、クライアントや外注先との連絡やデータのやりとりが必要であったため。
- 通勤網もあり程度回復したので、通勤可能な者は自主出社。特に会社からは指示せず。ただし出社の際は安全最優先を呼びかけた。
- 人数が少ないため、自宅待機にしてもオフィスの省エネ効果はさほど期待できない。またオフィスにいなければ、業務上不便が多かったため。
- 通常の交通機関で出勤できる者は出勤させた。出勤できないものは有給休暇として処理。

#### 【各自の判断で行動を呼びかけたケース】

- 社長から緊急メールリストで交通機関の情報を流し、随時各人の判断で行動した。なお、無理をしないを原則とし、各人が自宅待機か何時出社かと常に連絡し合うことを励行した。

## 【実施した会社の理由】

### 実施日数 1日

- 1) 3月16日(水)にメインクライアントの実施に連動して自宅待機を実施
- 2) 3月18日(金)のみ実施。計画停電、原発事故等、社員の不安が募ってきたこと、主要取引先も自宅待機を実施したため、緊急性のある業務もなくなったと判断し、取引先に連絡の上、実施。

### 実施日数 4日

- 1) 3月14日(月) 出社 : 交通機関の影響のあるものを除き。
- 3) 3月15日(火)～18日(金) 自宅待機 :  
クライアントのほとんどが自宅待機となったため。担当JOBにより出社も可とした。

### 実施日数 5日

- 1) 3月14日(月)～18日(金)まで実施。停電による電車運休および混雑を防ぐため。
- 2) 交通機関の全面運休、代替交通機関も無理で通勤が困難な者に対して実施。  
振替交通機関で出社できるが、振替運行を行っていない交通機関を利用しているものに関しては、差額を実費支給し出勤させた。  
実際の自宅待機対象者は1名(5日間)
- 3) 交通機関の状況や現在の業務状況を元にし、全面的に各自の判断に拠った。月曜日には半数が出社。業務の目処が付いた段階で、早めに帰宅。延期・中止した業務への対応のため、火曜日以降営業職のほぼ全ての社員が出社した。カメラスタッフは撮影延期になるケースも多く発生し、自宅待機となったものも多かった。

### 実施日数不明

福島原発の事故により、放射線が関東圏に流れくるとの情報がありリスク回避のため。

## ■震災後の就業時間などはどうしましたか？

- 自由出勤
- 特に変更せず、通常通り
- 震災後しばらくは電車運行による遅刻・欠勤は出勤扱いとした。また、業務の目途が立った者は、定刻(17時50分)より前でも帰宅させた(定時退社扱い)。
- 数時間早めの帰宅とした(震災後1~2日)。その後は通常業務。
- 無理のない時間帯での出勤を奨励。また電車の運行が不安定だったため、夕方早めの退勤を数日間行った。
- 特に変更せず。出退勤時刻は連絡後、自己判断。
- 混雑する時間を避け、遅めの出社、早めの退社にしたが、平常時の勤務状態で頑張ってくれた。
- 変更はしていないが、上司との相談により遅刻・早退可とした。
- 特に変更はしていないが、プレゼンテーションや会議などの開始時間を意図的に遅らせる調整が見られた。
- 午前中を目処に、出来る範囲内で各自出社。帰社も早めにするよう指示があった。
- 退社時刻の繰上げ、16時・17時とした(定時18時)。
- 変更はせず、出社・帰社難易度によって遅刻・早退は認めた。
- 就業時間は変更せず、出社可能な者が対応。また裁量労働制を採用しているため支障なく対処できた。

## ■震災後の社内での節電について

※具体的にこうしているというものがありましたらご記入下さい。

- 照明50%消灯
- エアコンは使用せず、蛍光灯も窓際の場所は日中消灯。また、エレベーターを使用せず階段を昇降するようにしている。
- ビル全体で、廊下やトイレ等の共有スペースは消灯。エアコンも止め、重ね着での温度調整を求めた。
- 空調の使用を抑えている。
- 部分的に照明を消し、暖房も控えた。
- 電気使用量の省力化。特にエアコン、不要な電気の消灯。
- チャレンジエコ25に登録し、自分達で出来る範囲内で節電している。
- 蛍光灯を20%消灯。出来るだけエアコンは消している(3月、4月はエアコン不使用)。
- 事務所内の照明を80%ほどに抑えている。また、暖房も控えめにしている。
- 廊下やトイレの照明を消す。必要なときに点けるようにしている。
- 使用していないフロアは消灯。トイレ等も使用后消灯。
- コピー機は使用するときに稼働させ、極力まとめて使用した。
- 照明器具は必要最低限にし、共用フロアも許可を取り実施。
- エアコンはほとんど稼働させず、一時的に一日当たり30分程度の換気目的で使用。
- 蛍光灯の不要な部分は取り外した。

**■仕事上重要なものの管理や保管方法など、  
今後の対応についてどうお考えですか？**

- 非常用電源を考えている
- データ等は無事であり、管理体制の成果ととらえている。しかし、携帯メールアドレスは個人やチーム単位であったため、会社からの一括配信が出来なかった（翌営業日に携帯メールのリスト化を実施）。
- データは通常から複数名で共有しているものが多いため、今後も特に変更予定なし。
- データはなるべくこまめに保存する。外付けハードはデータ保存用 PC の2ヶ所でバックアップする。また、無停電電源装置、外部・内部サーバの導入を検討し、見積りの発注を依頼した。
- 机上の外付け HDD の他に外部サーバに保存するバックアップ体制のダブルスタンバイを行っていく。また、UPS（無停電電源装置）を設置し、停電対策を行った。これにより、緊急時でのデータ保存と事業継続の強化を行い、自宅待機中の場合でも外部データにアクセスし、データの管理と制作の続行を可能にした（外部データの所在地は大阪）。
- 本社以外の場所にデータの必要性を感じていたが、実際に震災が発生し、早急に対応すべきと考えている。
- データの分散保存、停電対策などに対して取り組んで行きたいと考えている。また、一般インフラとしてクラウド化が進めば検討する。
- サーバ内のデータのバックアップは最重要なものに限られ全てが対応している訳ではない。コスト面のこともあるので今後の検討課題となっている。
- 社内にデータを共有するためのサーバを置いているので、そちらに各 PC 内のデータを定期的に保存し、バックアップを取っておく。
- PC のバックアップ体制を見直し、強化しようと考えている。
- PC 機器など地震で倒れないような措置はとっており、データのバックアップも毎日行っている。

# 3. 震災後の仕事面での影響と今後について

## ■クライアント状況は？

- スポンサーで被害に遭った所があることが影響し、受注が極端に減少している。
- 特に大きな被害を受けたクライアントはいない。部品等が入手出来ず、生産出来ない自動車会社など、経済的被害を受けたクライアントはいる。
- 一部の工場等に停止・休業はあったが、大きな被害はなかった。
- 新製品の販売開始を遅らせることが多くなり、(1～2ヶ月程度)予定されていた新規案件が延期となる。クライアントサイドにおいて、期末に震災があったため、年間計画の練り直しが4月一杯行われている模様。GW明けから案件の始動を予想する
- クライアント2社が東北を営業エリアとする企業。震災でかなりのダメージを受けている。
- 東京本社関係の業務は縮小又は減少。
- 震災後、代理店・クライアントは1週間自宅待機。
- 福島県に本社を置くクライアントが被災して、相当なダメージを負っている。仕事に動きがあったのは、震災1ヶ月後であった。
- 一律で予算のカットがあった。
- 一般報道と連動しており、東北方面に支社、営業所等があるクライアントは辛いようだ。また、部品供給が途絶え、新商品導入が秋にずれ込んだ製品も出てきている。

- 中部や関西方面など、震災の直接的被害を受けなかったクライアントには、当社の自宅待機、業務停止の措置を疑問視する企業もあったが、大半のクライアントは、当社の対応に、理解を示した。
- 震災後1ヶ月経ってもペンディングになったままの制作物があるが、それはごく一部であり、全体的にはほぼ通常通り業務が行われている。
- 代理店・制作会社に被害はないが、撮影の予定が延期している。クライアントとしても再開の目処が立っていない状況に困っている状態。
- 広告を出すことに対し、自粛ムードが漂っている。
- 関東、関西含め、ヒアリングしたところ、求人の減少はありそうだということ。

## **■仕事面での影響は？**

- 3月、4月の受注が減少。
- 広告出稿、カタログ制作等、中止・見送りになったものは多い。進行が延期されている案件も多い。
- 紙の不足による印刷中止や広告掲載の見送り等、中止もしくは無期延期となる仕事が発生した。計画も停滞気味でこの状況は続いている。
- 震災前からの継続案件については、スケジュール遅延はあるものの、すべて納品となった。新規案件については、4月一杯新たに動くものはなかった
- 東北を営業エリアとする企業の1社からは、制作途中の仕事が保留となった。もう1社は震災後も定期刊行物の休刊などはなく、むしろ震災に関する情報発信を行う姿勢があるため、弊社の受注に変化はない。ただし、来年に向けて長期的な受注は不透明度を増している
- 制作物のスケジュール変更やペンディングが発生。

- 夏に向けた停電時の対応(データ管理・納期遵守)を要請された。
- スタッフのモチベーションの低下。
- 4～5月に予定していたイベントの中止、商品導入の遅れにより、カタログ、映像制作の遅れ、中止が出て来ている。今後の動向に不安を感じている。
- 直接被災のクライアント、二次的被災のクライアント(メーカーなど)、自粛対象のクライアント(観光など)を中心にプロジェクトの中止、延期、縮小、というケースが非常に多く、大きな影響を受けた。
- 取引先の印刷会社1社が「震災の影響でキャンセルが相次ぎ」という理由で不渡りを出した。ただし、弊社の売掛金額はさほど大きくなく、同社が取引先であるクライアントの案件も他社を通じて引き続き行う予定。
- 発生直後、撮影スタジオをキャンセルしたが、震災の影響ということでキャンセル料が発生せず、助かった。
- 4月以降の目処が立っていない。製品カタログ撮影などのルーティンの仕事についてもメーカーの生産拠点被災の影響もあり、制作が延期している。
- クライアントの広告を自粛する傾向に加え、震災による資材そのものの不足により業績的には厳しい状況が続くと思われる。
- 直近は厳しい状況を覚悟。一方、復興需要は必ずあると想定している。

## ■今後の経営上の不安要素に関して

- 4月以降の売上が相当落ち込む見通し。先の見通しはまだ立たず、体力勝負になる気配。
- 仕事の停滞は確実に経営を圧迫している。早い業務回復を待っている。
- 確かに不安はあるものの、弊社はカタログのCGを手掛けているが、新規分野であるため、

「引き」には今のところ問題を感じていない。

- 広告、出版業界全体としてみれば、低迷していたにさらに拍車がかかると思われる。  
しかし、弊社は3年前に天災ではなく、人災で窮地に立った経験があるため、経営規模をミニマムにしてリスタートしており、コンピタンスを発揮出来る仕事だけでまわる経営をして来たので、今後にそれほどの不安はない
- 夏場の計画停電
- 消費マインドの低下による広告削減
- 予算削減ならびに停電時の対応
- 益々の景気の低迷により、取引機会の喪失はまぬがれない。実績があるからと安穩としてはいられない。これからは、受注した案件を今まで以上のサービス(CRM=カスタマー・リレーションシップ・マネージメント)を施し、フォローを徹底していく覚悟である。
- 重要資産データの喪失
- クライアント被災による受注減
- 自粛ムードが広がる中、当社の事業(レンタルスタジオ・広告写真の企画制作)にどのような影響が、またいつまで影響があるのか不安である。
- せっかく今年になって上向いてきた感触があったのに、この影響が長引くと厳しい。
- 広告の自粛による仕事量の減少。
- 原材料の不足。
- 売上の著しい減少の為、雇用や人件費問題。
- 景気、為替、電力、放射能。

## ■当面の対応策は？

- ただただ営業活動あるのみ。キャッシュフローに注意する。人員整理の予定はない。
- 新規開発の時間が出来たと考え、活動している。
- 更に、時代のニーズに合ったインタラクシオン(iPad, AR 等)の企画・開発を進めることにより前向きに状況を切り抜きたい。
- 震災があったから特に対応策を取るということはない。
- PC ハード内部の保護、データの管理。
- 計画停電に合わせた出社時間のシフト。
- 自宅での制作作業の可能性を模索。
- 競争力のある分野を作る。そのために資産価値を高めなくてはならない。明日のためにどの部分、どの資質に投資するかということである。そして、安定した仕事を得られないと明るい未来は見えてこない。
- 現在従業員10名3日分の食料や簡易毛布は用意したが、万一首都直下型地震を考えると、もっと備蓄は必要。
- サーバの二重化(首都圏以外の場所に)。
- 連絡・情報共有のソフト・ハード面の整備。
- まずは、情報収集に注力している。
- 社員の安全に関する検討事項
  - 1)被災対応グッズの配備
  - 2)連絡網の確認
  - 3)仕事のローテーションによる健康管理

○業務上の検討事項

・得意先への連絡方法整備

○現在はとにかく受注量を増やすことに注力し、広告出稿量が激減したことの影響を受けても経営に支障がないよう備える。

○いつもの業務を粛々と進めるだけだが、社員の安全にはいつもに増して気を配る。

○スタジオでの安全対策マニュアルを作成し、お客様へ配る準備をしている。

○原材料に関しては当面の量は確保することが出来た。

○仕事量の減少に対しては、利益を確保するため経費の節減をさらに徹底する。

## ■今回の震災で感じたことはなんですか？

○社員の帰宅指示や自宅待機等、状況を見ながらの判断が続いてしまった。

外資系企業の事例を見るにつけ、予めルールを決めておくべきであったと感じている。

○やはり原発の問題が大きい。気持ちの切り替えが出来ず、消費が落ち込み、経済への大きな影響が懸念される。

○私たちの社会は、こんなにもひ弱な仕組みの中にあっただのかと、震災自体よりも、それに対応する人間の問題を、特に東電の原発被災に対処する科学技術と危機管理のあまりの脆弱さに衝撃を受けている。

○我々の仕事も電気がなければ成り立たない。アナログ時代とは違う危<sup>あや</sup>うさ、脆<sup>もろ</sup>さを痛感。

○人間の真の実力は、逆境時に現れると云われている。今回のクライシスで、仕事と人、社員と会社との関わりを目の当たりにして世の中、捨てたものではないと実感させられた。むしろ、社員の行動に誇りを感じた。兎に角、粛々と仕事をこなしクライアントからの信頼を裏切らない。そのための備えをシッカリすること。

弊社は、ISO27001 の認定を受けているので、事業継続計画の訓練の成果により、

発生時の緊急連絡、安否確認、避難誘導などがスムーズに実施された。また、緊急時の際の水・食料は用意し、その他避難袋と用品もロッカー内に準備した。オフィス待機時、避難時、帰宅時に利用し、緊急時や帰宅難民として移動しなければならない場合や会社に泊まらなければならない場合等、10名分を避難グッズとして袋にまとめ衣服用ロッカーに用意した。

(備蓄内容)

\* 備蓄の内容 : 非常食(クラッカー)、菓子、アミノバイタル、懐中電灯、電池、軍手、除菌ティッシュ、ティッシュペーパー、簡易レインコート、簡易トイレ、マスク等。

飲料水はロッカー上に用意

災害時にヘルメットとともに、各自必要と判断した分を持ち帰るなり、利用することが出来る。

\* 当社は、今回のクライシスで「自分を守る・家族を守る・仕事を守る」を防災のスローガンとした。

○従業員との連絡網ツールの選択等について、急速な整備が必要と感じた。既に災害メール送信等の訓練を繰り返し行ってきたが、実際にはメールも送信不可が多かった。ツイッター、フェイスブック、スカイプ等を使用する連絡網を整備中。

○会社からの指示は、なるべく早く、詳しくすることが大事であると感じた。  
現在、会社⇄従業員1人のメール関係であるので、全員の速やかな情報共有手段を構築する必要を感じた

○風評被害に見られるように、根拠のない「噂」が日本の経済を駄目にしていくことが考えられる。そうしたことに正しいコミュニケーションで対応していくことも広告業界の役割であると思う。

○今回の災害で被災地の方や犠牲になった方に対し、本当にお気の毒に思い、心を痛めるが、日本人の一体感を盛り上げるキャンペーンには違和感を覚える。

○業績がようやく回復の基調にあっただけに、本当に困ってしまった。しかし、会社自体が壊滅的な被害を免れたのは不幸中の幸いであった。

○ニュースを見ながら、ただただ驚くばかりで何も具体的に出来ない自分達をただ無力に感じるだけでした。関西から業界を元気に出来るクリエイターを育てたいと、心から感じています。

## 当日の事務局について

あの日、日本広告制作協会では4月以降に理事になられる方に集まっていた「候補役員会」を16時から開催、その準備に追われていました。その時事務局にはインターンで来ていた2名を入れ5名が作業中。

そして、14時46分「地震だ」と感じて、すぐ大きな揺れとなりました。会議室と隔てたパーティションが激しく揺れ、PCの1台は床に落ち、会議室の書棚からは本が落下する音が聞こえてきます。最初の揺れがおさまり事務所内を確認すると、あの重いコピー機も動いています。キャビネット(上下別)の上部がずれ、給湯室のコップも落ちて割れています。

日本広告制作協会(OAC)は、銀座一丁目の昭和通に面したビルの9F。一度目の揺れがおさまり、窓より下をのぞくと既に多くの人が歩道に出ています。余震が続き、目の前のビルが波打っているのを見て大変さを実感しました。

エレベーターはすぐに停まり、役員会も中止に決定。しかし、連絡が全くつきません。ようやく役員のお一人から電話での連絡が入りましたが、それは運よくつながった1本。あとは電話も鳴らない状況でした。15時30分頃でしょうか、理事長が階段を使って上がってこれ一度外に出ることとなりました。16時を回り、名古屋の役員の方が到着。大阪の役員の方も来られたようですが、1階に貼り紙した中止の知らせを見て、東京駅に戻られたと後で知ります。

昭和通は大勢の人であふれ、そうこうしていると明らかに帰宅しようとしている人たちが増えてきました。事務局でもインターンの2名を含め3名を帰宅させました。しかし3名とも電車が動いていない状態でしたので、結局は歩いての帰宅となりました。

情報確認のためテレビをつけると、田んぼを覆い尽くす津波が映し出され始めました……。

PCでのメールが繋がるかどうかわかりませんでした。会員社の皆様にメールを配信。うまく届いていたのでしょうか。

事務局には名古屋の役員の方にホテルを取ろうと思うものの、電話が繋がらず結局事務局に一泊。専務理事も20時頃、歩いて帰宅へ。名古屋の役員の方と、わたくしで一泊することに。しかし、出向いたコンビニには既に食料がない状態。ようやく手にいれたビールやつま

みで夜を過ごしました。

携帯はなかなかつながりません。携帯のメールも同様でした。使っているうちに充電量が減ってきます。しかし、コンビニに充電器はもう売り切れの状態でした。

Twitterとface bookをやりはじめたのもこの日です。通信手段は多いほうが良いと判断したためです。

翌朝、電車で遅れはあるものの動いていましたので帰宅。

(事務局 三上記入)

## 編集・集計後記

あの日から7ヶ月。このアンケート時の不安は解消できたでしょうか。少し忙しくなってきたという声を聞いたのは、6月頃でしょうか。3月～5月の時期を乗り越える体力勝負の側面もあったかもしれませんね。

またアンケートで感じたのは、社員の方を守ろうとする意識の高さと、不安を抱えながらも前向きに進んでいこうとする姿勢です。

色々と我々の意識面にも影響を与えているのでしょね。

「今日のお前は一生懸命やったかい？」

そう毎日が問われているような気がします。